

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4071101234		
法人名	医療法人 恵光会		
事業所名	グループホーム ライフエイド柏原		
所在地 (電話番号)	福岡市南区柏原1丁目2-46 (電話) 092-565-2457		
評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成21年12月2日	評価確定日	平成22年1月7日

【情報提供票より】(H21年11月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	15人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	(有) 家賃の6ヶ月分) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	420 円	昼食	525 円
	夕食	630 円	おやつ	105 円
	または1日当たり		1,680 円	

(4) 利用者の概要 (11月15日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	2 名	要介護2	5 名		
要介護3	4 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	恵光会 原病院、野口内科クリニック、こうせい歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

母体である法人代表者が、病院退院後の高齢者が安心して生活できるようにとの思いでホームを立ち上げた。ホームは閑静な住宅街にあり、日常的に近隣の方々との付き合いを行っていることに加え、定期的に地域の方々を対象に医療や介護に関する相談会を開くなど、ホームならではの取り組みを行っている。また、利用者に自然に親んでもらえるよう、藤の季節にはホーム庭の藤棚の下でお茶を飲んだり外気浴を楽しむことができたり、畑も近くに作って農作物の手入れや収穫を楽しんだりしている。ホームの利用者は徐々に重度化しつつあるが、管理者、職員の温かみでポジティブな援助により、入居されている利用者は安心して暮らしていることが窺い知れた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>課題を管理者を中心に職員と話し合い、改善に向けて取り組みを行った。前回の改善項目は栄養摂取や水分確保の支援であったが改善できている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価項目を職員に振り分け、管理者と職員が面談にて話し合い、更に会議で再確認を行い管理者が取りまとめた。自己評価項目を確認し日々の業務で検討を行っている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>家族代表、町内会長、副会長、近隣住民、民生委員、包括支援センター職員、法人関係者、管理者、職員等が出席し定期的に開催している。討議内容は、利用者の現状、ホームの行事や活動の報告、出席者からの質問等となっている。運営推進会議を活用し、介護相談会を行う取り組みもしている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</p> <p>玄関に意見箱を設置し要望や苦情を表出しやすい環境を作っている。要望や苦情があった場合は、管理者と職員が話し合い即座に解決し家族へ報告している。また、家族会を年2回開催し家族同士の話し合いもなされるなど、意見交換の場を設けている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入しており、地域の清掃活動へ参加したり、小学校の運動会の見学や散歩の途中で近隣の方々と挨拶を交わす等、地域に溶け込んでいる。ホームの行事である夏祭りに地域の方へ参加を呼びかけ一緒に楽しんでいる。また、地域の方々を対象に勉強会や介護相談会を開き、地域の介護に関する拠点として取り組んでいる。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「地域住民の1人としてその人らしく暮らし続けられることを支援します」を掲げている。全員で話し合い、地域の方々と一緒に利用者を支えようとの思いを込めつくり上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、いつでも確認できるようにしている。毎朝の朝礼時に唱和し、管理者が理念について話しており、職員はサービス提供の際に実践、確認を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し地域の清掃活動に参加している。近隣の方々との挨拶は気軽に交わせる関係になっており、小学校の運動会を見学に行ったり、ホームの夏祭りに地域の方々の参加を呼びかけ交流の機会を作っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目を職員に振り分け、管理者と職員が面談にて話し合い結果を管理者がまとめた。評価項目を確認することで、ホームの役割やサービスの向上等について理解が深まり、職員の意識の向上に繋がっている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表者、町内会長、副会長、民生委員、近隣の方、地域包括支援センター職員、法人関係者、管理者、職員等の出席により2ヶ月に1回開催している。会議では、ホームの状況や行事、活動の報告を行い、出席者からの意見や質問を受け意見交換を行っている。また、医療や介護に関する相談会も同時に行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者等が市に直接出向いたり、電話にて不明な件を問うことがありいつでも相談できる関係である。また、地域包括支援センターと一緒に介護相談会を開いている。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修に参加しホーム内で伝達研修を行っている。資料等も解りやすい場所に置き必要な時は活用できるようにしている。利用者が入居される際には、制度の説明を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には管理者、職員が利用者の暮らしぶりや状態を必ず報告し、状態の変化があった場合も即座に報告している。金銭管理に於いては、預かり金、利用明細に領収書を貼付しきちんと報告している。職員の異動があった場合は、家族会開催時に紹介し報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、意見や要望を表出しやすい環境を作っている。意見や要望、苦情があった場合は管理者と職員が話し合い解決し家族へ報告している。また、家族会を年2回開き家族同士及びホームとの意見交換の機会を作っている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での異動は少ないが、異動ややむ無く離職があった場合は、担当者や新職員が引き継ぎを行ったり、その他の職員も関わり利用者の状態がスムーズに把握できるようにしている。管理者は職員の要望や希望を聴き取り、働きやすい環境を整える取り組みを行っている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人全体で募集、採用しているが、年齢や性別等の条件は無い。採用後は利用者との関わりの中で職員の特長や趣味を日頃の業務で活かせるよう、レクリエーションや活動に取り込んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動  法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	年に1回人権や接遇についての研修を法人全体で行っており、毎月、接遇目標を設定しホーム内に掲示している。朝礼時に目標を唱和し、管理者・職員はそれぞれが業務の中で遂行している。		
13	21	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に安全対策、衛生、接遇、レジャー等の委員会があり、職員が所属して全体で学ぶ機会がある。また、新人職員には教育係があり新人教育プログラムに沿って研修を実施し、1ヶ月・3ヶ月の期間で評価を行っている。現任の職員は年間でテーマを決め研修会を開いている。外部研修の案内にて必要な研修に参加し内部で伝達を行っている。		
14	22	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者・職員が外部研修に参加した際に他事業者と情報交換をする機会があり、同法人のグループホームとの交流も行っている。		地域の同業者と見学会や研修会を開くことで、ホームの長所や工夫を確認できたり、職員の知識の更なる向上が期待できるのではないだろうか。是非、交流の機会を作る取り組みに期待する。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	病院から退院後に入居となるケースが殆どである為、入院先に管理者、職員が出向き面談を行っている。入居前には2泊3日程で体験利用も受け入れている。また、利用者や家族の状況で自宅訪問を行う体制もある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者から生活の知恵を教えてもらったり、会話の中から知識等を知ることがあり、人生の先輩として利用者を尊敬しそのような利用者の姿を見て職員は励まされることが多い。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの意見や要望、日頃の様子をホーム独自に作り上げたアセスメント表に具体的に記入している。また、6ヶ月に1回は再度アセスメント表を作成し思いや意向の把握に努めている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントを元に本人・家族を交えて担当者、計画作成者等が担当者会議を開き計画を作成し、ミーティングにて職員間で確認している。主治医からの意見や助言は受診時に聴き取っている。		具体的なアセスメントにて計画を作成しているが、主治医の意見等の記入漏れがある為、計画作成時にはっきりとわかるように記録していただくことが望まれる。
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回のミーティング時に全職員でモニタリングを行っており、状態の変化に応じて随時計画の見直しを行っている。また、6ヶ月に1回再アセスメントを実施している。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態に合わせ訪問リハビリを受けたり、受診時の付き添いを行ったりしている。また、本人の希望により美容室への付き添いを行っている。その他、地域の方々を対象に介護相談会を実施するなど、事業所の多機能性を十分に活かしている。		
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により継続の主治医やホームの協力医への変更がある。協力病院の看護師が月に1回来訪し、利用者の状態を把握し主治医に報告することで連携を図っている。また、受診時の付き添いも行っており、他科に於いても希望する医療が受けられるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の指針を作り、必要に応じ本人、家族に説明し家族と同意書を交わしている。ホームでの看取り介護に関して職員も周知しており、ホーム全体で方針を共有している。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者へ尊重の意を表し丁寧でプライバシーに配慮した言葉使いをしており、利用者は穏やかな表情で過ごしている。個人情報に関わる書類等は事務所内の書庫に保管し第三者の目に触れることはない。また、利用者の個人情報の利用目的を明らかにし利用する際の同意書を交わしている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな1日の流れはあるが、本人の希望や体調に合わせ、ペースに合わせた生活をしている。また、本人の希望を出来る限り取り入れられるよう過ごし方を聴き取ったり、提案する等の支援を行っている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや希望を聴き取り職員が献立を立てており、盛り付けや後片付け等利用者の出来る力を発揮してもらっている。また、畑で収穫した野菜を調理し食卓に出すことで食欲増進にも繋がっている。ホームの利用者は重度化傾向にあるが、職員は利用者と一緒に食事を摂り和やかな時間を共有している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に4日の入浴日があり、各ユニットで交互に設定しており、利用者は1階と2階でいつでも入浴できるよう配慮している。また、夜間の安眠を促す為に希望者へは足浴を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑の野菜に水やりをしたり、収穫や洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ等利用者の出来る力を活かし、楽しみにもなっている。また、利用者の特技や好みを活かした余暇時間にて気分転換を図っている。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常の散歩、買い物等利用者の希望に沿って支援を行っている。また、季節ごとの行事、ドライブや外食等できるかぎり外出の機会を作る取り組みを行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や居室には施錠はしておらず、自由に出入りできる。2階への移動はエレベーターを使うがエレベーターも自由に使用している。ホームの入り口は急な坂になっている為、安全対策として門扉を設けているが施錠はしていない。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は夜間想定、消火訓練を含め年に4回実施し消防署も立会っている。運営推進会議に於いて地域の方々との協力体制に関しても話し合われており、連携は取れている。また、外部の消防訓練にも職員が参加しホームでロールプレイング等を用いて伝達研修を行っている。災害時の非常食の準備も予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の栄養士に献立をチェックしてもらい、管理者がカロリー計算をし利用者の状態に合わせた食事を提供している。食事、水分摂取量は毎日全利用者に対し記録している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの玄関には季節の花が飾られ、廊下やリビングには利用者と共に飾り付けた装飾があり更に季節感を感じることができる。また、トイレや浴室等は清潔に保たれており、利用者が気持ちよく生活できるよう配慮されている。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、入居前から愛用している椅子や小物等が置かれ、壁面には本人が作った作品や写真を飾り本人らしい部屋で心地よく過ごせるよう工夫している。また、居室の窓からは暖かな日差しが差し込み明るく快適な環境となっている。		